

発行:えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 発行日:令和3年3月4日
〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地
TEL:01466-2-2410 E-mail:erimomus@cocoa.ocn.ne.jp
<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/>

◆ わらしゃんど事業 ◆



2月6日(土)、令和2年度最後の「わらしゃんど事業 雪山遊び」を実施しました。

悲恋沼では、アイスドリルを使い、氷に穴を開け厚さを調べ(40cm以上)、氷上で風を利用し「ソリ遊び」をしました。



悲恋沼から庶野さくら公園へ移動し、ソリ遊びや雪だるまづくり、山の斜面をステージに雪合戦を行いました。

雪だるまは、木の実や樹皮、木の枝などすべて自然のものを利用した力作となりました。

雪合戦ではスタッフを相手に負けじと地形や木の陰などを利用するなどの工夫をしていました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、半日に縮小して実施しましたが、参加者は「悲恋沼の氷の厚さに驚いた。午前中だけだったけど楽しかった」と話していました。

◇ 冬の体験陶芸教室開催 ◇

「冬の体験陶芸教室」が、2月19日(金)、26日(金)、3月12日(金)の全3行程で、前回(10月開催)に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策ため、町民限定で開催しました。

初日は、粘土を練り、お皿やカップなどの成形を行いました。



参加者の中には、陶芸初挑戦の小学生もいました。

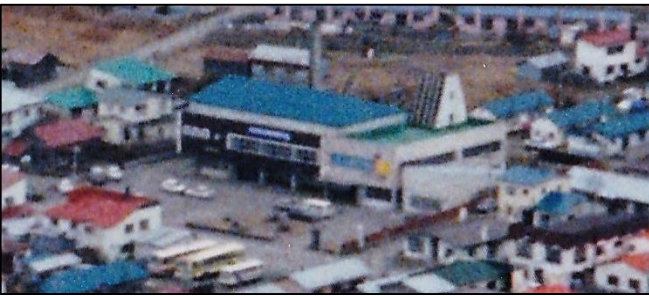
参加者は、講師や職員からのアドバイスを受けながら、思い思いの作品を楽しみながら作っていました。



郷土資料の寄贈がありました

2月25日(木)、町民の方より、貴重な郷土資料品(航空写真3点)を寄贈していただきました。

寄贈していただいた航空写真の年代を調べたところ、「福祉センター老人室(昭和63年12月完成)」が写真に写っていたこと、現在の「灯台公園ステージ(平成2年2月完成)」と「公衆便所(平成元年12月完成)」になる前の写真だったことから、昭和63年から平成元年までの間に撮影された写真であることがわかりました。



本町から新浜(旧えりも小学校付近)(写真:上)
平成2年、大改装前の福祉センター(写真:中央)
現在のステージができる前の灯台公園(写真:下)

地名の由来 ～ ナンブケ(南部家) ～

ナンブケは、和名「南部家」に由来するもので、松浦日誌にも「一名南部家と云(いう)。文化度南部陣屋有しが時号くと」の記録があります。

しかし、この地名は江戸時代の末ごろであって、それ以前にアイヌ語地名「エクシュワンペツ」と呼ばれていました。

「エ・クシ・アン・ペツ」(E-kus-an-pet 頭・川向う・にある・川)の意味です。

この川は間もなく二つに分かれ、東はフンベオマナイ、西は本流となっていますが、「エクシュアンペツ」の「エ」(頭)は、フンベオマナイより見た場合は、川向うにあるという意味に解釈できます。

アイヌの古い考え方によれば、川口は尻で、頭は川の源を意味しています。

なお、川の名を松浦日誌は「エクシュワンペツ」、松浦地図は「イクシュシベツ」と記しています。



国道：南部家橋から南部家川を撮影

3/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	体験陶芸教室	○	○	○	休館日	○

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	4/1	2	3
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○

3月～4月の
開館カレンダー